

男女共同参画

男女共同参画社会とは、世代や性別にかかわらず、誰もが自分らしく暮らせる社会です。
そのためにも、私たちの住む地域や身近な社会生活について、行政と市民とが互いに知り、学び、考え、発信し合い、共に社会をつくって動かしていきましょう。

あっ しおかせ

ジェンダーの視点で災害に強い地域づくりを!

静岡大学 教育学部 教授 池田 恵子



防災・復興にジェンダー^{*}の視点が必要なのは、男女が災害から受ける影響は違い、復興の過程でも異なった経験をするからです。国内外の大災害の事例では、以下のような共通点が見られています。女性が男性より多く犠牲になり、男女の死亡率の格差は、災害の規模が大きいほど大きく、女性の社会的地位が高い国ほど小さいという一般的傾向があります。また、家事・育児・介護の労働負担が急増し、性別分業が固定化された社会では、増加した労働負担は主に女性にしわ寄せされる傾向があります。女性は男性より先に仕事を解雇され、先に職場復帰するのは男性であると指摘されています。子どもや女性への暴力が増えることも、国内外の大災害事例で例外なく報告されています。一方、公的な防災や復興

のための組織の中心的担い手は男性で、女性は重要な意思決定に十分に参加していない状況があります。

避難生活が長期化した東日本大震災の被災地では、これらの問題に加えて、尊厳ある避難生活の基礎であるプライバシー確保(更衣室、女性専用物干し場、授乳室など)や、女性用の必需物資の不足・配布システムの問題(物資の責任者の大半は男性)について、女性がニーズを声に出しにくい状況がありました。一方、地域のリーダーである少数の男性が、地域への責任感から避難所運営の重圧を背負い込むことによるストレスの問題も見られました。

災害とは、平常時からある社会の弱さや歪と自然の破壊力が交差するところで発生する被害です。社会の中で発言力が低かったり、社会的・経済的・政治的な機会を十分に享受して個人の持てる能力を發揮することができない人がより深刻な被害を受けます。被災地で見られる男女の被災経験の違いは、固定化された性別役割分担(男性は外で働き、女性は子どもと家庭を守る)、男性は主な稼ぎ手で女性の労働は家計補助であるという想定に基づく男女の就労機会の格差、地域における女性の政治的代表的性の低さなど、日常の暮らしにあるジェンダーの課題が凝縮されて噴出したにすぎません。地域に平時からみられるジェンダー課題から防災を考え、男女ともが地域の防災に責任を持つ体制を整えることが必要です。

暮らし・地域の課題全体の中で 災害とジェンダーを考える



避難所に設けられた女性用ルームの入口
更衣室・託児室・物干し場・女性用品の保管場所を兼ねています。



安全安心のメッセージカード

相談窓口の情報・「避難中でも安全安心に暮らしたいと思うことは、わがままではない」というメッセージが書かれている。避難所の女性用ルームや女子トイレに置く。

*ワンポイント基礎用語 「ジェンダー(社会的性別)」:生まれつきの肉体的な性差ではなく、生まれてから後、社会的・文化的につくられる男らしさ、女らしさなどの性差のことです。

静岡福祉大学 演劇サークル

・活動日
毎週水曜日 14:30~17:00
(静岡福祉大にて)
・連絡先・公演依頼等
gekisa・suw@hotmail.co.jp



「試食でもいいから、手軽にとっつける演劇を」昨年5月末、高校時代から演劇をやっていた荒砂さんは、演劇の楽しさをいろいろな人たちに伝えたいという思いから仲間を募り、「演劇サークル」を立ち上げました。発足2年目、新入生2名を加えた現在のメンバーは、演劇の経験も学科もさまざまな男子6名女子5名の計11名。人数が少ないため全員が役者兼裏方。脚本も自分たちで書きます。

地域福祉の視点から、児童を対象にした公演を年に数回開催。今年3月には、地元大富小学校の児童とタッグを組んで大富公民館で公演。ポスター作りや会場係は小学生が担当しました。「またお手伝いしたい」今度は舞台に出たいといったらうれしい声を聞くことができた。子どもたちの笑顔が「一番」と副部長の渡辺さんは目を細めながら語ります。「子どもたちを楽しませたい。演劇は子どもたちに関わる『ツール』と語るのは小八重さん。役から離れた公演後も、子どもたちとのふれあいを大切にしています。

時には部員同士、意見がぶつかり合うこともあるとか。しかし、部長の荒砂さんは演劇の醍醐味を次のように語ります。「欠けていい人は一人もいない。一人ひとり何かしらの強みと役割をもっている」と。ぶつかりながらも互いの良さを認め合い「それ、いいね!」と声を掛け合うサークル内の雰囲気は、荒砂さんのこの個々を尊重した考えにあるように感じました。

メンバー各々、目標は違っても子どもたちを楽しませたいと舞台上立つゴールは同じ。彼らの演劇を通じて広がる人の輪と絆。地域を巻き込む彼らの勢いと熱意にエールを送ります。

グループ紹介 第17回

静岡福祉大学 演劇サークル